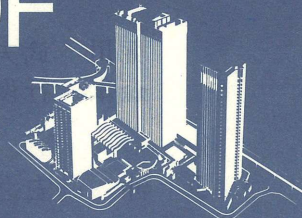


THE ROTARY CLUB OF TOKYO NEW-SOUTH WEEKLY REPORT



東京新南ロータリークラブ週報

September 18, 1987 No. 47

今年度のターゲット (チャールズ C. ケラー)

ロータリアン--奉仕に結束--平和に献身

ROTARIANS--UNITED IN SERVICE--DEDICATED TO PEACE

○ 本日の予定

昭和62年 9月18日 (第49回)



本日は夜間例会 (レディースディ) です

卓話: 『ロータリーの裏話』

山口 栄一 氏 (帝国臓器製薬(株)社長・東京南RC)

先週報告

昭和62年 9月11日 (第48回)

◎卓話: ロータリーの世界親睦活動について / 齊藤 茂之君・WFA 委員

司会: 田島 一郎 会長

♪ロータリーソング: それでこそロータリー リングリーダー: 吉田 用親 君

ニコニコBOX 紹介: 吉田 用親 君 来客紹介: 四分一 勝 君

出席状況	会 員	40 名中	出席	27名	欠席	13名
	来 客	10 名	(都内)	10名	地方	0名)
			ゲスト	1 名		

○東京町田カピタRCからチャーターナイト (11月15日) のご案内にみえました

○委員会報告 沖社会奉仕委員長より “チャリティーコンサート(9月10日)のお礼

○幹事報告 10月23日のガバナー公式訪問のスケジュールについて

9:30 ~ 10:20 P.M. ガバナー、会長、幹事 懇談会

10:30 ~ 11:30 P.M. 第3回クラブ協議会

12:30 ~ 13:30 P.M. 例会

□RI 情報抄録より (1987年 8月号)

息抜きに肩の凝らない言葉を

することは何もないと楽しみはありません。することが
沢山あって、しかも終わっていないと愉快なのです。

--メリー・ウィルソン・リトル、米国の作家

□ニコニコボックス (S6Z/9/11 敬称略・順不同)

堀川 武夫 (東京町田RC) チャーターナイトのご出席のお願いに 宜しく
森本 行俊 (東京町田サビアRC) 11月15日当クラブのチャーターナイトを町田市民ホールで
行ないます 皆様のご来訪をお待ちいたします

♪ 沖 宏之 チャリティーコンサート 無事終わりました ご協力ありがとうございました
 四分一 勝 昨夜のコンサート とお酒がいまだ気持ちよくのこっています
 村川 優 チャリティーコンサート 成功を祝す
 コ 佐藤 定宏 チャリティーコンサート 大成功すばらしい演奏と聴き手でした
 ソ 宮本 正祥 チャリティーコンサート 素晴らしい出演者と参加された皆様に感謝して
 サ 平井 逸夫 徳永さんの素晴らしい演奏を聴き唯々感動いたしました 第1回
 | のチャリティーコンサート が大成功をおさめおめでとうございます
 ト 武下 朗 昨夕の コンサート皆様のおかげで無事おわりました ありがとうございます
 | 田中 武 感動的な演奏会を聴かせていただきありがとうございます
 ♪ 馬場 一廣 素晴らしいコンサート でした
 河原 勢自 昨日のコンサート に出席出来ませんでした
 子西 焯也 夏風邪をこじらせ先週の例会欠席 チャリティーコンサート のお手伝いが出来
 渡辺 治 ここ数回欠席いたしました お詫びまでに

本日の合計 14件 51,000円

それぞれ、多額のご寄附を頂きました 有り難うございます。

◎Visitors (順不同・敬称略)

東京-武蔵野RC 川合 寛二
 東京-町田RC 堀川 武夫 東京-町田サビアRC 森本 行俊
 東京-芝RC 佐古田 威 鈴木 康夫
 東京-南RC 子安 敏三 松尾 治樹 鈴木 治己
 H. Schmidt 殿村 僚筈

○Guest 佐藤 倫子 (斉藤君ゲスト)

交通遺児・身体障害者支援'87

東京新南ロータリークラブ

チャリティーヴァイオリンコンサート

■演奏■

徳永 二男

NIKK 安事楽団コンサートマスター

梅村 祐子

ピアノ

すぎやまこういち

ピアノ

■プログラム■

ヘンデル ソナタ 6番

フランク ソナタ

ウィニアフスキー スケルツォ タランテラ

チャイコフスキー 瞑想曲 他

日時：1987年9月10日(木) 7:00PM開演

場所：OAGホール(港区赤坂7-5-56 ドイツ東洋文化会館内) TEL (03)583-7743

入場料：¥5,000 (全自由席)



グァルネリの音に魅せられて 山下 忠治

去る 9月10日夜、カナダ大使館脇にあるOAGホールで開かれた当クラブ主催のチャリティーコンサートは、たいへん楽しいものでした。

♪当日のプログラムは

- | | |
|-------------|----------------------------------|
| 1. ヘンデル | ソナタ第6番 |
| 2. フランク | ソナタイ長調 |
| 3. ウィニアフスキー | 華麗なポロネーズ
レジェンド
スケルツォ・タランテラ |
| 4. サラサーテ | カルメン幻想曲 |

♪アンコール曲として

- | | |
|----------|------------|
| 1. マスネ | タイスの瞑想曲 |
| 2. ブラムス | ハンガリア舞曲第5番 |
| 3. サラサーテ | ツィゴイネルワイゼン |

という名曲ばかり、一夜で聴くには勿体ないくらいの名曲のオンパレードでした。

N響のコンサートマスターとして長い間親しまれている徳永二男氏のヴァイオリンをソロで聴くという機会は、そう滅多にあるものではありません。その夜は、その滅多にない貴重な機会でした。

前半は格調の高い2曲を配していました。銘器グァルネリ・デル・ジェスの第1音は、ドイツ・バロックのヘンデルのソナタから始まりました。ヴァイオリンの銘器といいますと、一般的にはストラディヴァリが有名なのですが、ヴァイオリニストにとってグァルネリはストラディヴァリと同様、誰でも一生に一度は持ってみたいと思う銘器だそうです。女性的で甘美な音色のストラディヴァリに対して、グァルネリの音は男性的でしかも重厚、聴衆をぐいぐいとひきこんでゆく魅力があります。そしてそれぞれに良さがあって、どちらが良いと言えない、まさにヴァイオリンの中では双壁の銘器であるわけです。

クライスラーの愛器もグァルネリでしたし、プログラムの後半にでてくる19世紀のポーランドの名ヴァイオリニスト、ウィニアフスキーも晩年、グァルネリを愛用しました。また、日本にも何度か来日したことがあるルジェロ・リッチは往年の名ヴァイオリニスト・フーベルマンが持っていた1743年製のグァルネリを愛用しています。

徳永氏が、持つグァルネリは1744年製のものだそうで、時価1億5千万円するということで会場も驚きの声につつまれました。司会者も追い打ちをかけるように弓の価格まで聞き出して、これが何と“ロールスロイスが買える値段”だそうで2度ビックリ。(ひょっとして、奥方より大切にしていますかな?)

さて、2曲目のフランクのソナタですが、ここでは徳永氏の大器ぶりがあらわれた見事な演奏といえます。私も、ベートーヴェンのクロイツェルソナタと並び称せられるこの曲が好きで、気品あふれる趣は、あたかも名画の中の小犬をつれた貴婦人を思わせるものがあります。(次ページへ続く)

後半のプログラムは、すべてサロン風な曲でヴァイオリン曲の楽しさを十分堪能いたしました。

ウィニアフスキーはサラサーテと同様、素晴らしい技巧の持ち主で、ヴァイオリンの為の曲を22曲残しておりますが、どれも難曲。したがってヴィルトゥオーゾが好んで弾く曲ばかりです。最初の曲レジェンドは伝説曲と訳されていますが、昔メニューインが天才少年時代に録音した名盤を思い出、懐かしく聴きました。またスケルツォ・タランテラはポーランドの舞曲ですが、指盤の上を躍動する指と完璧なまでコントロールされた右手を見ていますと、難曲といわれるこの曲が、あたかも一陣の風が通り抜けるような爽快な心地よさを耳に感じました。まことに恐るべきテクニックではあります。アンコールの最後に弾いたツイゴインエルワイゼンが圧巻でした。

一緒に聴いた娘も、徳永氏の素晴らしい演奏に感銘をうけたようでした。

会場を出ると、夜空はもう秋の気配がありました。満ち足りた気持で家路へ付きましたが、このコンサートのため労を執られた四分一さんに感謝の心をこめてブラボーと拍手いたしましょう。

○ 交通遺児・身体障害者支援 '87 チャリティーヴァイオリンコンサートのご報告 ○
社会奉仕委員長 / 沖 宏之

田辺前会長並びに田島会長のご指導のもとに、「第1回交通遺児・身体障害者支援 '87チャリティーヴァイオリンコンサート」を無事終了する事ができました。皆様のご協力ありがとうございました。

当日ご鑑賞された皆様全員が、その調べに酔いしれたことと思います。徳永二男氏の素晴らしいヴァイオリンの音色、それに加えてテクニックの巧妙さに、ただ心より感動するのみでした。勿論、梅村祐子氏のピアノ伴奏についても、申すまでもございません。

2部に入り、日頃我々が聞き慣れた馴染みの曲を演奏して戴き、テクニックに魅了され、無限の境に引き込まれてしまいました。そして、司会のすぎやまこういち氏の簡潔な楽しいお話しで、更に素晴らしい演奏会になりました。

創立1年未満の当クラブが、このような事業を成功させることが出来た事は、全会員の心の結束のあらわれに、ほかならないと思います。この純益は必ずしかるべき処へ寄附します。尚、275 地区西川ガバナーより、お褒めのお言葉を戴きましたことを、あわせてご報告申し上げます。

社会奉仕委員会・プログラム委員会報告 / 沖 宏之

9月3日『ジュリアン』にて上記委員会を開催致しました。9月11日のチャリティーコンサートを成功させる為、色々な議論がなされ担当が決められました。又、これからの社会奉仕のあり方に就いて、相当突っ込んだ議論がなされました。

プログラムの方は、東京新南ロータリークラブの卓話については、「卓話が良いから新南にメーキャップしよう」と云われるぐらいの内容のものを目指そうと云うことで全員の意見の一致を見ました。

出席者は 岩上 武下 斉藤 山田 四分一 宮本 沖
最後になりましたが、岩上さんには大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。

私がロータリーに入会しましてから本年度10年目を迎えました。又この間お陰様で1回も休まずにこれました事を大変嬉しく思い、又自分の健康問題として捕えると、何とか10年やってこれたのだから、今後も15年、20年と元気で頑張りたいと大きな励みにもなっております。さて、ロータリーには個々の出席率と同様にクラブ出席率というものがあります。あるクラブは永年誇ってきた100%の出席率を維持しようとするあまり、病気で入院してしまった会員の病室で例会を持ったと云う話があります。この話をカンサスCityでのRIコンベンション('85)の折り当時会長だったカルロス・カンセコ氏に致しました処、『確かにロータリーでは出席率も大事だが、この世の中には戦争や飢えに苦しんでいる人が大勢いるのだから我々が理想とする奉仕の精神をまず第一に忘れないで欲しいNever forgetだ』とおっしゃられました。

処で、私はこのカルロス会長よりRIのWFA（世界親睦諮問委員会）のメンバーになれと云う任命をその年(1984-85)受けておりました。ロータリーでは任命を受けたら、お断りをしてはいけないとの事、微力ではありますが私の力の限りを尽くしたいと思っておりました。さてその年度のWFA委員には、『ロータリーの基本となる Fellowship の活性化を計る為のプランをレポートせよ』とのアサインメントがありました。

ご存知の様に、RIというのは、我々個々の会員がRIのメンバーなのではなく、ひとつひとつのクラブがRIのメンバーとなっております。そしてクラブをまとめているのが地区でRIよりガバナーが任命され、この地区を超えるとすぐRIにつながる訳です。従って地区を超える親睦はすべて世界親睦の領域に入るとみなされる訳です。

ロータリーの親睦を共通の趣味で拡げてゆくべきと云う方針は1963-64年のカール・ミラー会長が提案し、大いに推奨しました。そして1967-68年には委員長が1人、4人のコミッティメンバーからなるWFAの前身が出来、1969年にはアレックス・ソーヤロータリアンが世界親睦の会長に任命され、正式にWFAが発足致しました。その後WFAは大きく発展し、本年度1987-88年には、ロータリーの『手続き要覧』にも世界親睦活動が掲載され、地区に一人の世界親睦活動委員を任命するよう書かれております。（但し、残念ながら東京の257、258地区においてははまだ任命がありません。）

さて、上記の親睦活動の活性化を考えました時、日本において親睦はゴルフを抜きにしては考えられない程、大勢のロータリアンに愛されている趣味であります。私が84-85年のWFAの委員でありました時には、当時日本には26の地区がございましたが、各地区では盛大なゴルフ大会を開催しているものの、地区どまりに終り、地区を超える大会がございました。この事をテーマにして、『地区を超えるゴルフ大会開催』をRIに提案しました処、WFA委員長より成功を祈るといってお便りを頂く事が出来、当時RIの日本理事だった菅野氏よりもお励ましの言葉を頂く事が出来ました。

ゴルフ大会はいよいよ本年実現となり、JGFR（Japan Golfing Fellowship of Rotary）と銘打ち、11月11日、霞ヶ関カンツリーで開催の運びと成りました。日本全国の1775のロータリークラブにお知らせを出した処、479のRCより資料請求をして参りました。現在24地区141名で〆きり、ウエイティングリストのある状況です。当クラブよりは岩上会員と田中会員がご参加下さる事になっております。こん大会が、ロータリーの世界親睦活動の一環となり、クラブから地区、さらには日本全国、世界のロータリアンが手を取り合えますよう、心より祈るばかりであります。ご静聴ありがとうございます。 以上



